

審判員派遣報告書

派遣事業名	第39回全関西中学生バスケットボール交歓大会	派遣期日	令和3年12月27日
報告者	久保 理恵	派遣先	広島県立総合体育館

1. 大会概要

大会名称	第39回全関西中学生バスケットボール交歓大会	大会期間	令和3年12月27日
大会概要	各府県バスケットボール協会から推薦された男女各30チームが参加し、予選リーグ、決勝リーグを3日間にわたって行う交歓大会。		

2. 担当試合 ※ (試合内容は簡潔に書いてください)

日程	令和 3年 12月 27日	会場	広島県立総合体育館
審判クルー	CC : 久保 U1 : 奥村 氏 (滋賀)		
担当試合	RIZING徳島 (徳島) vs. M&Sクラブ (佐賀)		
試合内容	RIZING徳島はインサイド、M&Sクラブは1対1とアウトサイドシュートを中心として攻め、終始接戦のゲームだった。38対36でRIZING徳島が勝利した。		

日程	令和 3年 12月 27日	会場	広島県立総合体育館
審判クルー	CC : 久保 U1 : 重松 氏 (大阪)		
担当試合	菊陵 (福岡) vs. 戸坂 (広島)		
試合内容	菊陵がオールコートプレスディフェンスからターンオーバーを誘発して、終始リードする。78対21で菊陵が勝利した。		

1. 研修会「スキルとマインドのブラッシュアップ」(神田亮一氏)

ゲームマネージメント ・誰でもわかることをミスしてはいけない (FT数、シューター、T.Oの数 etc.)
・ 笛の重み…勝敗を決することになる覚悟、夢を壊す・場を台無しにする笛になっていないか、バスケットの醍醐味を提供する、取り消せないことへの責任。

Processing The Game

(1) プレーを見る (SDF) (2) プレーを分析する (3) プレーを判定する ・Foulの判定・・・なぜFoulを判定しなければならないか→有利・不利を生じさせないため

Foulを見つける、罰する→本当にやられているプレーヤーを守る。アウトの判定も大事だが、セーフの判定も大事。10:0の判定は少ない、白/黒/グレー=NC/PC/マージナル

モチベーションのコントロール ・承認欲求・・・それなりの準備と振り返りがなければ絶対に得られない。やりっぱなしの審判、ぶっつけ本番のレフェリーではいけない。(TLG担当審判員の周到な準備と実践、振り返りを例にして)

職業人として⇔審判員として2つの最上位目標を持つのは生易しいことではない。どちらかに絞ることにこだわらない、自分にとって一番良いと思える道を選ぶ。2つの目標を関連付けられれば望ましい。

ポジションアジャスト ・目的を持ってアジャストすることでアングルを確保する (1)DFの見えるアングル (2) アクティブマッチアップを把握するためのアングル ・「ビジョン」と「フォーカス」の使い分け ・「アングルを確保する」ことを理解できていますか? オープンアングル→プライマリ 2人以上がオープンアングルを持っている場合はごく稀である

2. 大会を通して感じたこと

私自身、久しぶりの県外での審判活動でした。県内とは違って、慣れない会場・コートで、初対面の方と一緒に吹く経験は、改めてたくさんを感じさせてくれました。今回、私が特に大切だと感じたのは、「オープンマインド」と「プレゼンテーション」です。

2P0で2試合ともCCを務めた。U1は、年明けにJr.WC派遣が控えているという奥村氏(滋賀)と、近畿ブロックの女性講習生である重松氏(大阪)でした。限られた時間の中で、必要事項の確認、情報のすり合わせを行うことの難しさと大切さを学びました。相手の言わんとしていることを汲み取ること、自分の考えを上手く伝えるためのタイミングや言葉の選び方、インターハイ研修で学んだ「オープンマインド」が生かされる絶好の機会でした。

「プレゼンテーション」は、インターハイ研修の全体課題でもあり、自分自身も課題として掲げ、直近1ヶ月取り組んでいることでもありました。県外に出ると、選手もベンチも相手レフェリーも、誰も自分のことを知らない、だからこそ信頼してもらうための手段として、審判らしく振る舞うこと=「プレゼンテーション」が大切であると再認識しました。

今回学んだこと、感じたことを生かし、審判技術の向上を目指して、より一層励んでまいります。

最後になりましたが、今回の派遣に際して、ご理解ご協力いただきました香川県バスケットボール協会、審判委員会の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも、ご指導よろしくお願い致します。